

E—10 女子学生の基礎体温に関する研究 (第6報)

山形大教育 長岡 佑

1. 前回までは女子学生 100 名の、松本・大倉両氏による BBT 型分類と、飯塚・吉田両氏による BBT 型分類とを比較検討し、前者による BBT 型別、ABO 式血液型別にそれぞれ、周期日数、回数、持続日数、随伴症状の特徴、月経周期の変動、BBT 型の反復性について述べたが、今回は松本氏報告による黄体機能不全と推定される周期について検討した。

2. 前回と同じ。

3. (1) 100 名の 1,149 周期のうち、黄体機能不全と推定される周期を発現した人数は多いが、周期数は少ない。(2) 総周期に対する黄体機能不全周期の頻度を正常、頻発、稀発周期別に観察すると、頻発周期が最も高く、うち 20~24 日が高い。(3) この平均周期日数は、第 4 報 (A) より短かく、ちらばりが大である。この周期を V 群と II~IV 群に分けて平均周期日数を比較すると、V 群はやや長くちらばりも大である。(4) 低温相日数平均は (A) より長くちらばりも大である。V 群も同様である。(5) 高温相日数平均は (A) より短かくちらばりも大である。V 群も同様である。(6) 全 II~IV 群に対する黄体機能不全周期 II~IV 群の頻度を BBT 型別にみると、III 型が高く、学年では 3 年次が低く、季節では春が低く、初潮年齢では 12~13 歳代が低く、ABO 式血液型では B 型が非常に高く、通学方法では大差ない。(7) 当月黄体機能不全周期発現の場合、誘因と認められたものについて検討すると、誘因は前月より当月が多く、当月の卵胞前期、前月の黄体期に多い。